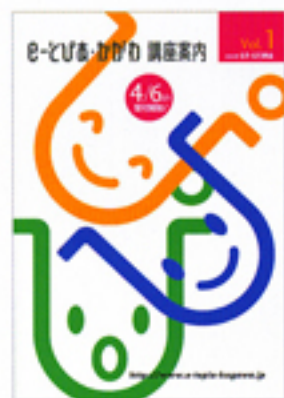


地方都市のグラフィックデザイナーと、東京などの大商圏で仕事するグラフィックデザイナーとでは、ビジネスの環境とスタンスに違いはあるのだろうか。今回は、四国の高松市で長年、地場産業とともに歩み、香川のデザイン界をリードしている有限会社猪子デザイン研究室社長の猪子進さんにインタビューした。近年は、グラフィックデザインの領域に留まらず、地元の大企業、自治体のCI、VI計画も受け持ち、プロジェクトを推進している。「地場産業とコラボレーションし、クオリティの高いデザインをしていきたい」と語る猪子さん。地方のデザイン業務の内実について話を伺った。

## e-とびあ・かがわ



e-とびあ・かがわのVI計画

**グラフィックデザインの道に進まれた経緯…**

**猪子** 岐阜の高校を卒業し、東京の大学に進学しようと思ったのですが、学生運動が相当激しくなったので進学をあきらめ、高松に戻ってきました。ちょうど父親がグラフィックデザインの会社を経営していたので、父親の下で仕事をすることにしたのです。当時、エアープラシによるイラストが流行っていて、バルコの広告などで山口はるみさんのイラストレーションが使われているのを見て、エアープラシに興味を持ちました。それでグラフィックデザインを始めて創作活動を行ったのです。19歳の時に個展を開いてから、毎年のように個展を開かせていただきましたが、そんな実績もあって、1978年26歳の時に、有限会社猪子デザイン研究室を設立し独立したわけです。

**当初、商業デザインとしてはどういうものを…**

**猪子** 友人とタウン誌を発行しました。30年前にタウン誌という発想はおそらく全国でも珍しく、当時、雑誌のタウン誌は東京などに数冊あっただけでした。もちろん、高松では初めての試みで「NICE TOWN」という名称で、最初から書店で販売しました。創刊を立ち上げてから10年ほど発行してきた頃、コンセプトが揺らぎはじめたわけですが、10人ほど関わっていましたが、デザインは私と2、

3人でやっていて力仕事ということもあって行き詰まってきたのです。それで後輩のデザイナーたちにデザイン・レイアウトを任せて、私は撤退することにしました。

また、デザイン関係の協会に加入していたので、協会が地方にいるデザイナーに代わって企業に売り込んでくれたので、それで企業から仕事が舞い込んでくるようになりました。ホスターやレコードジャケットのデザインの仕事を任されるようになりましたね。

**地方のデザイナーに発注する理由というのは…**

**猪子** 最大の理由は、地方のデザイナーの方が東京のデザイナーよりもはるかにデザイン料金が安いからです。東京と地方のデザイン料金の格差は大きく、現在でもそれは変わっていません。仕事を始めた頃は、県内ではデザイン料金自体認めてもらえない状況でした。印刷の中の1つのサービスという感覚だったわけです。現在でもあまり改善されていませんね。東京と比較してデザイン料金の格差は相当なものがあります。10分の1程度ではないでしょうか。

**そんなに安いのですか？**

**猪子** はい。それが地方の実態なのです。ネット時代になり、最近では地方のデザイナーにも発注する機会が増え、東京のデザイン料金がやや下がってきた感がありますが、地方の状況は依然として低いままですね。どこもデザイン事務所の経営は四苦八苦しています。

# コミュニケーションのあり様をデザインしていく時代に



**地元**の企業や自治体の仕事を随分とさ  
れてらっしゃいますね。

**猪子** 東京からでもお仕事ができれば、  
させていただけますが、やはり、地  
場産業のデザインに携わるケースが多くなり  
ます。香川県でデザインを続けていくた  
めには、あらゆる業界に関わり、さまざま  
な仕事をこなしていかなければなりません。  
とにかく東京と違ってデザインの発注  
量自体が少ないわけですから、コンペがあ  
れば欠かさず参加して、売り込まなければ  
なりません。でも、競争が激しいので、そ  
れだけ入札価格も抑えられ、デザイナーに  
とっては厳しいですね。

**現在**はどのようなものをデザインされ  
てらっしゃるのでしょうか。

**猪子** 各種ポスターから製品カタログ  
、会社案内、パッケージ、C・I  
(コーポレート・アイデンティティ)、V・  
I (ビジュアル・アイデンティティ)、ま  
でも引き受けています。専門  
分野はあくまでもグラフィック  
デザインですが、最近はホーム  
ページ制作も受注しています。

**C・I、V・I**ともなると、大き  
なプロジェクトになると思  
うのですが…。

**猪子** 完成するまでに1、  
2年掛かるものもありま  
す。C・Iと言いましても、中核  
のV・Iがどうしても中心になり  
ますので、ロゴ、マーク、キャ  
ラクターなど視覚的なデザイン

の企画立案の制作を担当することが多くな  
ります。

**ネット時代**になって、メリットは？

**猪子** 例えば、劇団関係のポスター  
制作をもう20年ほどさせてもらって  
いますが、最初の頃は原稿や色校正のやり  
取りが郵送や宅配便でしたが、最近はメル  
ルで送受信できますから、仕事が大幅に時  
間短縮できる点です。

**これ**からは地方から東京へ発信する時  
代かもしれませんね。

**猪子** 高松の印刷会社や製版会社が、  
東京に進出するケースが出てきてい  
ますからね。

ネット時代になり、仕事のスピードに差  
がなくなっていると思います。地方のほう  
が安いということで、地方にビジネスチヤ  
ンスが生まれているケースもありますよ。  
デザインもそうなれば良いと思いますが…。  
地方からの発信ということでは、今年、  
香川県の企画で、日本グラフィックデザイ  
ナー協会の福田繁雄会長のプロデュースで  
香川県の伝統工芸品である丸亀うづわを、  
海外の著名なデザイナー163人(23カ国)と  
国内の20人のグラフィックデザイナーが  
「世界に愛の風を…」をテーマにデザイン  
しました。エゴロジに関心を持ってもら  
おうというのが狙いです。香川のデザイン  
プロジェクトということで、私と出淵光一  
さんもデザインしましたが、「EUNIFAN  
2007」と銘打った同プロジェクトは、7月  
から8月にかけて各地でイベントを行い、

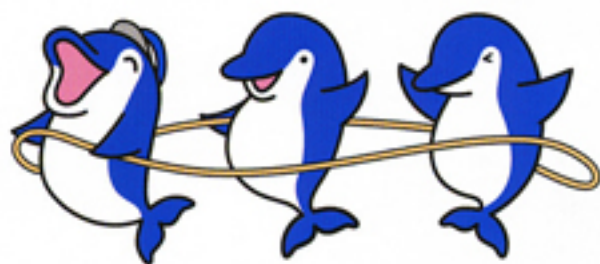
## Profile of 猪子 進

1959年2月高松市生まれ。70年中央商業高校卒業。71年第一回高松一幻想展開催。72年一  
科展入選。78年有限会社猪子デザイン研究室設立。四国で最初のタウン誌を発行。業務内容は  
会社案内から商品カタログ、パッケージ、各種グラフィックデザイン、C・I・V・Iデザインな  
ど。主な仕事として、瀬戸大橋シンボルキャラクターラクター審査及び補作デザイン。高松市制百年シ  
ンボルマーク審査及び補作デザイン。高松三越誕生60周年シンボルマークデザイン、サンメッ  
セ香川シンボルマークデザインなど。91年、計画としてJA香川県、ことであ、香川医療短期大  
学校、三浦トシエ、香川など多数ある。81年、83年ラハチポスタービエンナーレ展。00年トウル  
ナポ・ポスタービエンナーレ展、モスクワ、グラフィックデザイン・ビエンナーレ展。日本グ  
ラフィックデザイナー協会会員、香川県デザイン協会理事。

デザイナー自らが商品までも企画し  
提案できるようならなければいけ  
なくなつたと実感

猪子進

## ことてん



高松琴平電気鉄道株式会社のVI計画

丸亀うちわもアビールすることができました。このようにデザインに関するプロジェクトが、地元で主催できたのはそれなりに意義があったと思います。

猪子さんが香川のデザインを牽引されてこられたと言つて過言ではないのでは…。

猪子 そんなことはありません。香川県では「香川芸術フェスティバル」という全国でも有数の芸術・文化の祭典が毎年開かれていて、今年で49回目を迎えます。それを見ても分かるように、香川県には元々デザインの下地があったのだと思います。

コミュニケーションとしてのグラフィックのあり方が問われるようになってきています。つまり、コミュニケーションのあり様をデザインしていく時代になりつつあることを感じます。ホームページ制作であれば、いかにそれを活用して顧客とのコミュニケーションを図っていけば良いのか、デザイナー自身が提案できることが求められています。今までは与えられた仕事をいかに美しく表現し、価値を伝達していくかが目的でしたが、これからはデザイナー自らが商品までも企画し提案できるようならなければいけなくなつたと実感しています。

猪子 CIやVIの仕事というのは…。

猪子 90年代になって、企業は理念を明確にし、イメージアップを図るためのデザインを求めるようになり、ロゴ

デジタル化、インターネット時代になって、仕事は変わってきましたか？

猪子 グラフィックデザインの対象とも言えるポスターのデザインが大幅に減少してきたのを感じます。パブル崩壊と同時に予算削減というところで、ポスター制作が一気になりましたね。しかし、ITの発展で

やシンボルマークの制作のお手伝いをする機会が増えました。VIはCIをさらに具体化したもので、企業の分散したイメージを整理・統合し、新しい個性に集約するものと言えるでしょう。この分野の仕事では、香川県のイメージアップロゴ・マークVI計画、センメッセ香川(空港跡地)VI計画、サンポート高松VI計画、JA香川県VI計画など自治体関連の仕事から、ことてんVI計画など地元企業まで、多くのVI計画のデザインに携わりました。今日の企業は、商品にしても、企業そのものであっても、ブランド戦略が重要になってきます。いかにブランド力をつけて商品を買っていかかか問われています。CIやVIは欠かせないものになっています。しかし近年は、不景気の影響もあって、CIやVIがめっきり少なくなりました。私たちの仕事は産業界の好不況に左右されますから、企業が元気でない面があります。デザインの仕事も増えない面があります。どこでもそうでしょうが、地方はなかなか厳しい状況にありますね。

猪子 Webサイトの制作は…。

猪子 以前、インターネットの黎明期に四国電力などのWebサイトを制作することがあるのですが、以後、紙媒体に軸を置いて仕事をしてきたため、Webサイトやデジタルメディアを手懸ける機会が減っていました。でも、これからまず自社のサイトを作って、本格的にWebサイトを交えたマルチメディア展開を視野に入れたデザイン業務を目指していきたいと考えています。